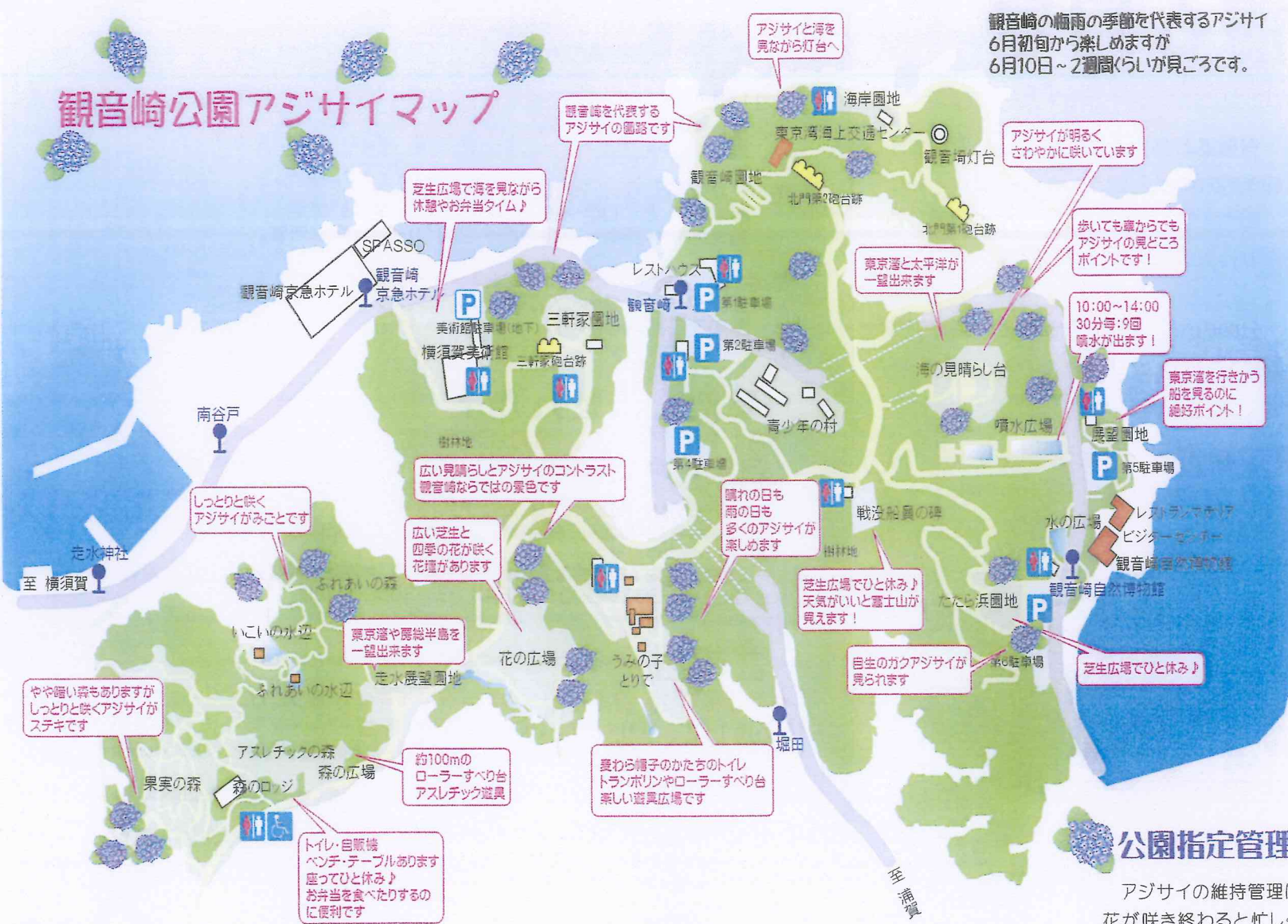


# 観音崎公園アジサイマップ



## シーボルトとアジサイと 牧野富太郎

シーボルトは江戸時代後期に長崎のオランダ商館員の一人として来日し、オランダ人と偽って出島に滞在、医療や動植物の新種記載など博物学的な研究に従事したドイツ人医師です。

シーボルトはオランダに帰還してから日本植物誌を著し、アジサイ属14種を新種記載しています。記載の中にガクアジサイの種名としてH.otakusaと命名しています。しかしこの種はカールツンベルグによりH.macrophyllaと記載されており、H.otakusaは同一種として抹消されました。

にもかかわらず、牧野富太郎が意識的にH.otakusaを使用したため、あたかも植物名として有効であるような誤解が広まりました。

シーボルトは日本でアジサイはオタクサと呼ばれていると命名の理由を述べていますが、牧野は日本国内でオタクサの呼称は確認できないとしてシーボルトの妾の楠本滝(お滝さん)の名を潜ませたと推測、美しい花に花柳界の女性の名をつけたとトンチンカンな批評をしています。

結果論ですが、牧野富太郎の推測によって「オタクサ」の名はシーボルトとお滝さんのロマンスをイメージさせて、作家の創作を刺激し、詩歌にこの名を読み込むことが盛んになりました。

## 公園指定管理者アジサイ管理よもやま話

アジサイの維持管理はどこの公園でも大変だと思います。花が咲き終わると忙しく剪定を行い、翌年の花芽を育てます。この時期を少し遅れて剪定すると、翌年の花芽を切ってしまいます。また剪定しないと丈が伸び間延びした、だらしないアジサイ群落や花壇になってしまいます。

昨年度はこの点にも力を入れて剪定してきましたので、今年の観音崎のアジサイは例年になく管理された状態のきれいなアジサイが楽しめると思います。

剪定の後も施肥など意外と肥料食いで維持管理泣かせの植物ですが、大切に育てていきたいと思っています。

## 南硫黄島にも自生していたガクアジサイ

園芸品種のアジサイの原種はガクアジサイです。ガクアジサイの天然分布は伊豆半島・三浦半島・房総半島南部・伊豆諸島なのですが、小笠原諸島には自生していません。それは伊豆諸島に比べ、小笠原諸島が亜熱帯の気候だからだと考えられています。

ところが、南硫黄島は標高912mあり、亜熱帯の小笠原諸島より、伊豆諸島に気候が似ているのでガクアジサイが自生出来ると考えられています。

観音崎に自生する貴重なガクアジサイも園芸品種以上に大切にしていきたいと思っています。